

会 議 録

1 会議名

令和4年度 第11回大潟区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

・報告事項（公開）

（1）大潟健康スポーツプラザ鵜の浜人魚館の利活用促進に関する意見書について

・協議事項（公開）

（1）令和4年度地域活動支援事業の成果報告会について

（2）地域活性化の方向性について

（3）「いきいきおおがた」プロジェクトについて

・その他（公開）

3 開催日時

令和5年1月26日（木）午後6時30分から午後8時20分まで

4 開催場所

大潟コミュニティプラザ 2階 大会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員：五十嵐郁代、五十嵐公子、君波豊、佐藤忠治（会長）、新保輝松、関清、
中野幹根、濁川清夏、俵木一松、俵木晴之（副会長）、細井雅明

（13名中11名出席）

・事務局：大潟区総合事務所 熊木所長、柳澤次長（総務・地域振興グループ長兼務）、
平野市民生活・福祉グループ長、布施教育・文化グループ長、風間班長、
水澤主任（以下グループ長はG長と表記）

8 発言の内容（要旨）

【柳澤次長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。

【佐藤忠治会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：中野幹根委員に依頼

【佐藤忠治会長】

報告事項（1）大潟健康スポーツプラザ鵜の浜人魚館の利活用促進に関する意見書について（回答）の報告を行う。事務局から説明を願う。

【風間班長】

資料No.1により説明。

【佐藤忠治会長】

12月26日に俵木副会長、風間班長と共に（株）大潟地域活性センターに説明をした。「サポータークラブを立ち上げて人魚館を支援してもらいたい。職員も協力できるところは一緒に進めたい。」「具体的な協議を進めるにあたって、地域協議会側の有志の窓口を決めて欲しい。」といった反応であった。今後、サポータークラブの立ち上げに向けて準備が必要となることから、地域協議会委員から協力してもらえる人を募りたい。その方たちを中心に大潟地域活性センターと協議をして、サポータークラブの呼びかけ、立ち上げをしていく。具体的に実施に入るので協力をお願いする。なお、1月11日に大潟区新年祝賀会が開催された。閉会の挨拶を任されたのだが、その中でサポータークラブと運営委員会の立ち上げについて意見書を市に提出したことを報告した。回答と、今後の進め方について意見はあるか。

【君波豊委員】

名立区の意見書に対する回答の中で、「機能集約する。」とか「あり方を検討する。」といった言葉があったが、大潟区への回答の中にはそういった言葉はなく、受け取る側として前向きに回答していただいたと感じ安心した。ただ、10月末に実施されたサウンディング調査の結果が気になりである。間もなく結果が分かると思うが、それをクリ

アすれば我々の今までの努力が報われるのかと思う。

【細井雅明委員】

人魚館は、地域協議会がサポータークラブを作ってくれると思っていないか。サポータークラブを作る主体は人魚館であるということではないか。

【佐藤忠治会長】

一緒に作るということである。

【細井雅明委員】

地域協議会が協力するという事ではないのか。

【佐藤忠治会長】

協力するという事ではなく、大潟地域活性センターと地域協議会委員の有志で準備会を作る。

【細井雅明委員】

作ってもらうということではないのか。

【佐藤忠治会長】

そうである。

【五十嵐郁代委員】

いい結果が得られてよかったと思う。市長が大潟区敬老会や大潟区新年祝賀会で「観光面を含めて人魚館はとても大切な施設である。市民の力が加わることはとてもいいことである。」と話されていた。準備会等については土屋委員からスケジュールを作成してもらってある。それを確認して準備会で声掛けをしていくのがいいのか、検討会で進め方を検討してから進めるのがいいのか。どちらでもいいと思うが、すでに意見書の回答が来ているので人魚館と立ち上げに向けて進めていけばいいと思う。他にも課題が多くあり、それらを解決することも大事なことであるので次に進んでもいいと思う。

【佐藤忠治会長】

五十嵐郁代委員のいうとおり、土屋委員からスケジュールを作ってもらってある。

1か月ほど回答時期がずれたので変更した予定表を作って欲しいと、前回依頼してある。

【五十嵐郁代委員】

今日、私のところに土屋委員から欠席するとの連絡があった。私もスケジュールを確認したのだが、「決まったことがありスケジュール調整することがあれば協力したい。」

とのことであつたので進めてもらってもいいと思う。

【佐藤忠治会長】

他にないか。

【細井雅明委員】

個人的な理由だが、準備会には参加できない。手伝いは極力したいと思うが、窓口等の主体的な動きはできない。

【佐藤忠治会長】

具体的にどうするか。地域協議会として活動するわけではなく、有志から準備会に参加していただく。有志として協力してもいいという方を募りたい。どのようにするか。

【五十嵐郁代委員】

皆さんに問いかけて、ここでまとまらなければ後日でもいいのではないか。

【佐藤忠治会長】

私は参加するが、皆さんからも参加をお願いしたい。

【五十嵐郁代委員】

準備会で立ち上げまでについての参加ということか。

【佐藤忠治会長】

まずは準備会に加わっていいという方を募る。

【五十嵐郁代委員】

私と土屋委員は、スケジューリング関係で関わる必要があると思っているのでやらせてもらおう。

【五十嵐公子委員】

私も人魚館で仕事をさせていただいているのでやらせてもらおう。

【君波豊委員】

準備会の設立そのものはそれでいいのだが、全員が加わってもしょうがない。大潟地域活性化センターと相談して、地域協議会から何人、大潟地域活性化センターから何人という形で決める方法もある。

【佐藤忠治会長】

私と副会長、五十嵐郁代委員、五十嵐公子委員、土屋委員の5人で準備会に携わることにする。準備会については後日連絡する。

次に協議事項（１）令和４年度地域活動支援事業の成果報告会について協議を行う。
前回の会議で当日の内容は決定した。委員の役割分担について欠席者もいたことから次回に決定することとした。当日の受付係、司会を決めたい。意見、質問はあるか。

【細井雅明委員】

いつも司会を五十嵐郁代委員にお願いしているので、今回は私が司会をやってみようと思う。

【佐藤忠治会長】

細井委員から手を挙げていただいた。他に立候補はあるか。

(一同なし)

では、司会を細井委員にお願いしたい。

(一同了承)

【俵木一松委員】

受付をやらせていただく。

【佐藤忠治会長】

他にいないか。関委員どうか。

【関清委員】

了解した。

【佐藤忠治会長】

五十嵐公子委員はどうか。

【五十嵐公子委員】

承知した。

【五十嵐郁代委員】

私もやらせていただく。

【佐藤忠治会長】

では、俵木委員、関委員、五十嵐公子委員、五十嵐郁代委員に受付をお願いする。集合時間は５時３０分である。

次に（２）地域活性化の方向性について協議を行う。事務局から説明を願う。

【風間班長】

資料No.3により説明。

【佐藤忠治会長】

キーワードによる分類をして7項目に分けた。この分類でいいか。他区の例を見ると構成要素として6項目ほど挙げられている。文言についても意見を出していただきたい。

【細井雅明委員】

キーワードによる分類の表は正副会長が作成したのか。

【佐藤忠治会長】

風間班長と一緒に作成した。

【細井雅明委員】

まちづくり大潟の取組みの中で感じるのは、小山作之助については地元でも「夏は来ぬを歌わせていても」といった感じである。小山作之助を盛り上げたり、知名度を高めたりする上で大きなキーワードになると思う。観光面で言うと鵜の浜温泉は上越市唯一の温泉街である。この小山作之助と鵜の浜温泉の2つは外せない。

【佐藤忠治会長】

小山作之助で言うと卯の花音楽祭が開催されている。これは小山作之助の偉業を称え、次の世代に伝えることを目的としている。

【細井雅明委員】

昨年度に潟町宿のルートマップを作成した。その中に大潟コミュニティプラザにある小山作之助記念資料室も掲載したが入りにくい。例えば、卯の花音楽祭やかっぱ祭りなどと連動して小山作之助をPRする仕掛けができないかと考えており、ひとつのキーワードとして大きく扱うべきだと思う。小山作之助と鵜の浜温泉の2つは外せない。

【君波豊委員】

資料No.3-2の分類1の②は小山作之助のことを言っていると思うが、分類2と合体してもいいと思う。分類2の偉人については、大潟区には小山作之助だけではなく偉人、賢人がいる。「大潟の偉人、賢人の顕彰」といった文言でまとめて、名前は小山作之助を筆頭にしてもいいが、笠原氏など過去にこの町を作った人もいる。同様にそういった人たちをメジャーな世界に出していくということも必要である。地域資源の発掘やまちづくりについていろいろと出ているが、所謂「文化」という言葉がない。どこかに文化という言葉を入れて、そこに出てきた項目を当てはめてはどうか。例えば分類1の歴史・景観の中に文化遺産というキーワードがある。その他にも文化活動を行っている人がい

る。そういった面でも「文化」という言葉を分類の中に入れてはどうか。大潟区に文化協会がなくなって久しい。文化協会を作る意味でも文化という言葉はどこかへ入れておくべきだ。もう1点、分類1の⑧は鵜の浜海岸を想定して提案していると思われるが、海岸浸食を目の当たりにしてきた私としては、ここで消波ブロックの再検討というのはいかななものかと思う。ただ鵜の浜は海水浴場という面もあり、九戸浜の皆さんが了解して「海岸浸食もやむを得ない。」ということであれば致し方ないと思う。少なくとも四ツ屋浜までは消波ブロックを取るということは考えられない。分類7の福祉の中で、「幼児から中学生の医療無償化」や「高齢者の運転免許証の返納支援」といった意見がある。医療の無償化などは市がやるべき仕事であり、区が手を出すことは疑問である。高齢者の運転免許証の返納支援についても個人の自覚によるものであり、それによるオンデマンドバス運用はいかななものかと思う。同じような内容はひとつに括って、分けたキーワードのところに埋め込んでいく作業が必要だと思う。地域協議会だよりで地域住民の意見を募集しているが、そこで出てきた意見を取り込んでもいいと思う。

【佐藤忠治会長】

キーワードによる分類の中に「文化」を入れるならどこに入れるか。

【君波豊委員】

歴史・景観に文化を加える。

【濁川清夏委員】

項目が多いとどう絞ればいいのか難しい。2つか3つに絞ったらどうかと思う。他区は5、6項目あるが、そんなにできるのかと思う。ある程度絞って、それに集中していくのがいいと思う。

【佐藤忠治会長】

この目的は、地域の活性化の方向性について皆で共通認識を持とうということである。項目に挙げたことをすぐに実行していくということではなく、非常に曖昧な部分がある。地域の活性化の方向性を地域協議会、地域住民、各種団体等で考えて決めてほしいということである。地域協議会だよりで地域住民の意見を募集している。意見は出てきたか。

【風間班長】

1件出てきたが、地域活性化の方向性とは違う内容の意見であったため今回の資料には反映できなかった。まだ募集中であり、今後出てくれば反映していきたい。

【五十嵐郁代委員】

質問だが、抽出されたキーワードを組み合わせて方向性を作成するということか。他区では、非常に具体的なことを挙げているところもあれば、目指す形ということでやりわりと言っているところもある。どちらかということであれば、分類④の教育にあるジムリーナ、体操など具体的なところまで入れ込む必要はないと思う。このキーワードをさらに絞り込むという考え方でいいのか。

【佐藤忠治会長】

7項目あるが、具体的なキーワードを基に誰もが分かりやすい方向性を示す文書を作り上げる。

【五十嵐郁代委員】

総合計画で作った最初の文書のようなイメージか。

【佐藤忠治会長】

そうである。

【五十嵐郁代委員】

それであればジムリーナや体操よりも、細井委員の意見のような地域の偉人等を強調してもいいと思う。だが、分類⑦教育の部分で言えば、施設としてそこを挙げる必要はない。逆に言えば、子どもたちに歴史・文化を学んでほしいということを教育とする方がいいと思う。

【細井雅明委員】

各地域協議会による「地域活性化の方向性」の作成についての文書の中に、具体的な活用方法等についての記載はない。地域独自の予算がこれからどのように具体的になるか分からないが、私はこのキーワードに関しての提案が挙がってくればより予算化しやすいと思う。そういう意味合いのものであると位置付けている。そうでないと地域活性化の方向性を作成しても、作成しただけになる。それを具体化したもの、関連付けたものを地域独自予算として提案していくという意味合いがあってもいいのではないか。そこから外れているからNGということではないが、私はひとつの目安、共通認識という捉え方をしている。

【新保輝松委員】

よく理解できないままに意見を提出してしまったが、今回これをまとめて市に提出す

れば終わりなのか、まとめた中身を討議して時間を掛けて何かを作り上げていくのかが分からなくてキーワードなどを選びようがない。

【佐藤忠治会長】

私も分かっていない。

【風間班長】

「地域活性化の方向性」が出来上がって、その後さらに地域協議会で揉んでもらうという作業はない。まずは目指すものの指針ということで方向性を作成していただく。作成した段階で、一旦作業は終了ということになる。

【佐藤忠治会長】

非常に中途半端である。これを基に総合計画の地区計画を作るわけでもない。これを提出して、その評価が来るかどうか分からない。非常に曖昧である。

【君波豊委員】

第7次総合計画がどのようにまとまったのか細かいところまで読んでいない。今回はパブリックコメントをしなかった。私は、最終的にこのようなまちづくりをするという方向性を出して、そのまちづくりのためにこういった予算が必要であるという具体的な提案をして予算がついていくというシステムになっていくのではないかと思っている。第5次総合計画の時に作成した「心なごむ潮騒のまちづくり」というキャッチコピーのようなものを作り、教育・文化面では子どもたちが平等に教育を受けられるような活動や福祉面では福祉施設の充実といったことを3、4項目挙げればいいのかと思う。例えば、「福祉の活動をするためにこういう予算が必要である。そのために地域独自の予算で要求したい。」と結び付けていくこともありだと思ふ。そういった面で、せつかく作成するのであれば見込みのあるものを表題にあげて実現していければいいと思う。町内会長協議会でも市に要望事項等を挙げていると思うが、そことも整合させて地域独自の予算として提案するという運動も必要になる。そのために大湊区のまちづくりの方向性を示していった方がいいと思う。ちなみに大湊町時代の3次計画と4次計画にも「心なごむ潮騒のまち大湊」とあり共通している。その下に人口定着等の具体的な項目をつけている。ひとつの大きなキャッチコピーを付けて、その下に大湊区が直面している交流人口の拡大を挙げ、そのために「鵜の浜温泉を中心とした交流観光の促進」という流れに持っていったらどうか。あまり多くの項目にしないで、「このようにやっぺいこう」とい

う項目を皆さんに示すことが必要である。それを大潟区連絡会議でまちづくり大潟や町内会長協議会と共通認識を持って今後のまちづくりを進めて行ければいい。

【佐藤忠治会長】

その辺りのはっきりとした市からのコメントがない。地域独自の予算も「案」の文字がついたままである。各地域協議会で作成された地域活性化の方向性が提出されているが、それに対しての市のコメントはない。

【君波豊委員】

市からの「(仮称) 地域独自の予算」の概要(案)の中に具体的な事例が載っていた。例えば「特産物を作る」というものである。まちづくりの方向性の中で「地域特産物を作る」という項目を挙げて、それに向かって予算が必要であるという時に地域独自の予算として要求していく流れになるのではないか。そのためにまず地域活性化の方向性を示せと言っているのだと思う。表題だけでも作成し、その下に出てきた細かい内容を予算化するかしらないかを地域協議会で協議していくということが必要であると思う。

【佐藤忠治会長】

これまでは「まちづくり」と言っていたが、市長が変わってから「地域活性化」という言葉を使うようになった。「まちづくりの方向性」と「地域活性化の方向性」は同じことであると思う。

【君波豊委員】

私も同じだと思っている。地域活性化の方向性は、まちづくりの方向性という認識で話をしている。「(仮称) 地域独自の予算」の概要(案)の中の事例には「滝寺自然公園整備と環境保全・保護活動」などを挙げている。地域活動支援事業で提案された事業であるが、地域の自然を守ることに對して予算を付けるということを示唆している。また、「手作りこんにゃく」なども挙げている。これは地域の活性化に繋がるということで例として挙げられている。このような事業を実施することで地域が活性化してまちづくりができるという事例だと思う。今回作成する項目に当てはまる事業が出てきたら地域独自の予算として要求していく流れになればいい。

【佐藤忠治会長】

地域協議会では実施主体になれないので他団体をお願いしなければならない。それが面倒なことである。或いは総合事務所で独自に提案してもらうことになる。

【君波豊委員】

我々は実施できないため、「このような方向でやっていこう。」という方向性を示す。活性化のためにこんにやく作りや地域特産物としてこういうものを作る。作るにはこういう手段が必要で経費がこのくらい掛かるといった具体的な提案が出てくれば、総合事務所で予算化できるような体制にもっていく流れが市長の描いている構図ではないか。これまでは地域活動支援事業として地域協議会で検討し、予算などもその中で整理して出していたが、今度は具体的なアイデアを総合事務所でさらに検討を加え、予算の裏付けをして市へ提案する流れになると思う。方向性を示すことは地域協議会にとっては重荷であるがやっていかなければならない。

【関清委員】

60歳、70歳代の方は意見を挙げてくれるが、「風土を活かす。」といったように似たような意見になる。仕事ができたり、子育てが楽であったりなど具体的に何が欲しいのかという観点で言うと、20歳、30歳代が何を考えているのか。ここに住んでいて将来にどんな希望を持っているのかというアイデアを出してもらった方が奇抜なものが出てくる。そこに寄り添う形で集約できればその地域は成功していく。そこが難しいところであるが、若者に標準を当てて、「子育てがしたい。」「子どもを産みたい。」「就職したい。」という人たちが、ここに住んでいてどう思うかの意見の集約のほうがまちづくりを考える上で必要である。

【佐藤忠治会長】

大事なことである。いずれにしても皆さんからの案を基に正副課長と事務局で案を作成したい。それを次回協議したい。

(一同了承)

次に、協議事項(3)「いきいきおおがた」プロジェクトについて協議を行う。事務局から説明を願う。

【風間班長】

細井委員が作成し、第5回地域協議会で配布した「いきいきおおがた」プロジェクト提案書を再度確認いただきたい。前回の地域協議会でこの提案について協議することとなった。地域協議会として今後取り組んでいくかを踏まえて協議いただきたい。

【佐藤忠治会長】

細井委員から補足はあるか。

【細井雅明委員】

提案した時は地域独自の予算の形が明瞭になっていなかった。地域独自の予算を作る一つの方法として募集から始まる具体的なプロセスを考えてみた。今後ずっとこうなるかは分からないが、例えば来年度で言うと2つの提案が審議中である。今後は自己負担が発生するということであるので、具体的な部分については検討が必要であるが、ひとつには私が作った「アイデアを募集して具体化する。」というプロセスを実際にやって地域独自の予算を作り上げていこうというものである。これは素案であり、概ねこれで行こうとなった場合には更なる協議が必要であるが、まずはこれを進めていくことへの合意が得られていないので、質問等があれば答えていきたい。「これでは駄目である。」ということであれば議論する必要はないと思う。あまり先に行ってしまうとスケジュール等もある。目標は9月の予算編成に向けてである。

【佐藤忠治会長】

意見、質問はあるか。

【五十嵐郁代委員】

進め方として、地域協議会とは別組織を新たに作るのか。

【細井雅明委員】

募集、審査するのは地域協議会、或いは大潟区総合事務所である。地域協議会等は実施主体にはなれないため、最終的に実施主体になれる団体を探し、場合によっては他団体と一緒に実施してもらうなど具体的なものがないと作れないと思う。そこまでの道筋は地域協議会と総合事務所でやっていく。

【君波豊委員】

考え方そのものはいいと思うが、プロジェクトという形が見えてこない。プロジェクトというあとにチームという言葉が付いて「プロジェクトチーム」となり、それを専門に扱うという形になる。そういった意味である塊を作り、そこでまちづくり或いは地域活性化のためにアイデアを出して、それを地域独自の予算に結び付けるための提案する流れになるのか。そこが読めない。企業の中では生産性や能率の向上のためにプロジェクトチームを作り、検討して、上申して予算付けをする。特殊なものを作り上げると

か、生産に結び付けるとか、抜本的な改善をするとなるとタスクフォースを作って具体的に論議する。多分そういったことを想定しているのかと思う。それを地域協議会の中で作るのか、有志に手を挙げてもらい外に作るのか。

【細井雅明委員】

提案は、幅広く個人や団体から出してもらいたいと思っている。案のまとめ、拾い上げ、審査は地域協議会や市で行い、具体的な実行プログラムを作成するのはどこかの団体と協議して作り上げていく。ステップごとの役割についての案も作成してある。どこかの団体に丸投げするのではなく、テーマごとに団体に割り当てたり、相談したりして具体案を作る。募集から最終的に予算が付くまでの流れをプロジェクトと名前を付けた。他にいい名称がなかったためプロジェクトとした。

【君波豊委員】

そういう意味では、塊を作ってもらったらいいと思う。その塊の皆さんが実行団体に話をして実現に結び付けるということになる。その方がいいのではないか。まずは集まったアイデアを解析する力を持った塊、団体を作ってもらい、アイデアを募集する。その団体が「この案はあの団体ならできる。」と判断、折衝してもらい具体化していくとなればいいと思う。

【五十嵐郁代委員】

君波委員と同じ考えである。地域協議会とは別の第三者的な団体があるほうが、受付や審査するときの公正性の点からもいいと思う。そういう場所があることが住民に伝わっていけば、いろいろなアイデアが出てくるのではないか。今、似たような組織としてまちづくり大潟がある。ただ、まちづくり大潟にそういったアイデアが出せる窓口があるか。「窓口」と捉えるとなかなかそういう場所ではない。具体的にイメージできる組織、運営体制があって、そこに広く地域の方からいろいろな意見を出してもらおうようにしたほうが全体的なイメージとして分かり易くていいのではないかと思う。

【細井雅明委員】

地域活動支援事業では各団体同士の繋がりがなく、あまり力のない団体であるとそれなりのアイデアしかなく、「もう少しここを改善するといい。」と思っても手の出しようがなかった。そういう意味では、アイデアの質を上げていける。

【五十嵐郁代委員】

アイデアを出すところと実行するところとのマッチングができる場があるほうが、より可能性が広がると思う。

【細井雅明委員】

概略を地域協議会が作り、募集から案までを別の団体が担うほうがいいということか。

【五十嵐郁代委員】

そうなったときに、まちづくり大潟、地域協議会、そして新しく作ろうとしている団体との整合性というか、役割の明確化がきちんと地域の人に伝わっていかないと「同じような団体が3つもある。」となってしまう。特性としてアイデアを出すところと実行するところをマッチングすることで、よりいろいろなことができることを強調できるような仕組み、体制が整っているとよりいい。

【佐藤忠治会長】

地域協議会はその役割ではないと思う。地域協議会は具体的に行動する団体ではなく、協議をして多様な意見をまとめて市に提出する団体である。具体的にまちづくりの事業を計画して実施していくのは、地域活動支援事業に提案したような地域の各団体である。私が知っているところでは名立区である。名立区では、まちづくり振興会がそういった機能を持った団体に衣替えをしている。中郷区もそうである。

【五十嵐郁代委員】

さとまる学校がある。

【佐藤忠治会長】

まちづくり大潟がそういう役割を担わなければいけない。

【濁川清夏委員】

細井委員の提案の中に「チラシやホームページ等でPRする」とある。この予算をどこでどのように用意するのか。無料ではできない。事務局のようなものを作ってから発信しないと何をやっていいか分からないと思う。

【佐藤忠治会長】

まちづくり団体を新たに作るのか。それとも既存の団体が担うのか。

【濁川清夏委員】

細井委員はその部分をどのように考えているのか。

【細井雅明委員】

提案した段階では、募集から具体案を作るまでの道筋は地域協議会や市で実施すると考えていた。具体案を作り、実行するために各団体と協議する仲介役ができないかと考えていた。それは地域協議会の役割なのと言われると疑問があるが、具体的な団体を最初の段階から作ることは考えていなかった。

【濁川清夏委員】

しかし、ある程度の形が見えるものがないと進まないのではないか。「まちづくり大潟は駄目である。」「地域協議会では実行できない。」となると誰がチラシやホームページを作るのか。そういったことの道筋をつけてもらわないと進まない。

【佐藤忠治会長】

令和5年度の地域独自の予算については、市が各団体や地域住民に向けて提案を呼び掛けた。大潟区地域協議会では、対象となる事業についてあまり考えてこなかった。自主的審議事項を中心に地域協議会で協議していたため、地域独自の予算の提案についての協議が煮詰まっていなかった。令和6年度の地域独自の予算に向けてどうしていくべきか。細井委員の提案が適合的かどうかということである。進めていく主体が今は存在していない。作るにしている見通しも、地域協議会で協議して主体となる団体を生み出す状況ではない。提案目的は非常にいいと思うが動ける団体がいない。細井委員はまちづくり大潟の役員も担っているが、まちづくり大潟でこのような活動ができないのか。

【細井雅明委員】

今の組織では難しい。

【濁川清夏委員】

しかし、事務局を作らなければ駄目である。

【五十嵐郁代委員】

窓口は必要だと思う。

【濁川清夏委員】

事務局を作り、そこへ各団体が提案して予算化という流れである。その核となる事務局がないと駄目である。誰がやるのか。誰がチラシを作るのか。誰がそれを配るのか。そういった具体的なものを決めていかないと令和6年度の予算要求に間に合わない。

【君波豊委員】

もうひとつ危惧することで、地域独自の予算に結び付けていくうえで3割負担という部分がある。ある程度しっかりしていて経済力を持った団体でないと対応できなくなる可能性もある。今、財力があるのは町内会やNPO法人などであり、いい提案があれば地域独自の予算に結び付けて実現できるが、地域活動支援事業のときと違い弱小団体は無理である。そういう意味で細井委員の提案しているプロジェクトについて、しっかりした塊ができてくれればありがたいと思う。そういう団体を通して、小さい団体も目的が達成できれば望ましい。

【佐藤忠治会長】

細井委員自身はそういった団体を自分で作ろうとは思わないのか。

【細井雅明委員】

作ると言っても、大潟区内のいろいろな組織を動かしつつ活動できる団体を作ること
は難しい。

【佐藤忠治会長】

まちづくり大潟では、地域で活動している小さな団体から申請があれば補助金を出している。まちづくり大潟そのものが、こういった活動の担い手になっている。今までそうやってきたのではないか。それが地域独自の予算に結び付くかどうかである。この内容でまちづくり大潟の中で取り組めないかを議論してもらったほうがいいのではないか。地域協議会では難しい。

【俵木晴之副会長】

細井委員から提案があつてから内容を協議できずにきてしまった。時間的な問題があると思うが、1か月くらい検討する時間はあるか。来月の地域協議会で細井委員の考え、委員の皆さんの考えをもう一度まとめて結論を出してはどうか。

【細井雅明委員】

私が現在考えている役割分担についての案もあるし、皆さんから出た意見を参考に団体等についても実現できるのかを来月までに考えたい。

【俵木晴之副会長】

今日結論を出すのは難しい。委員の皆さんからも再度検討していただき、次回の地域協議会で改めて協議してはどうか。

(一同了承)

【佐藤忠治会長】

この件は次回の地域協議会で再度討とする。その他に入る。事務局から連絡はあるか。

【風間班長】

柿崎区、吉川区の地域協議会だよりとチラシを配布したのでご確認いただきたい。

【佐藤忠治会長】

委員から連絡等はあるか。

(一同無し)

【佐藤忠治会長】

次回の協議会の日程案について事務局から説明願う。

【柳澤次長】

第12回地域協議会を2月22日木曜日午後6時30分から開催する。場所は大潟区コミュニティプラザ中会議室(2)である。

【俵木晴之副会長】

会議の閉会を宣言

9 問合せ先

大潟区総合事務所 総務・地域振興グループ TEL: 025-534-2111 (内線 201、216)

E-mail: ogata-soumu.g@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。